

令和2年度 第1回匝瑳市市民協働推進協議会 会議結果概要

- 開催日時 令和2年10月15日（木） 午後3時から午後3時55分まで
- 場 所 匝瑳市役所議会棟 第2委員会室
- 出席委員 熱田直美委員、大木三喜男委員、大久保彰彦委員、加瀬功一委員、
勝又康之委員、鎌形廣行委員、那智博行委員、増田和弘委員、
森田俊一委員（9名）名簿順
（欠席委員）片岡裕子委員、越川竹晴委員、佐藤隆之委員（3名）
- 市出席者 太田安規市長
（事務局／環境生活課）鎌形健課長、奥田賢二副主幹、仲田忍主査補

発言者	内 容
委員	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委嘱書交付</p> <p>3. あいさつ（太田市長）</p> <p>4. 自己紹介</p> <p>5. 議 事</p> <p>（1）会長、副会長の選出について 《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長に大木三喜男委員、副会長に加瀬功一委員を推薦する。大木委員については匝瑳市区長会長を経験されており、加瀬委員については匝瑳市ボランティア連絡協議会の会長を務めている。ともに積極的に協働を推進されている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会長に大木三喜男委員、副会長に加瀬功一委員の推薦がありました。ご承認については如何か。 <p>《拍手により承認多数》</p> <p>会長に大木三喜男委員、副会長に加瀬功一委員が決定した。</p>
委員	<p>（2）匝瑳市市民協働推進協議会について 匝瑳市市民協働推進協議会について事務局より説明 《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働指針が全戸配布されたが、あまり知れ渡っていない。それほど協働というものは難しい。しかし協働を推進することは匝瑳市において喫緊の課題である。先ほど、市長挨拶があったように、人口減少や財政状況の悪化など、行政だけでは解決できない課題が山積している。従来、市民は行政に頼り何

	<p>かをやってもらおうという意識が強かったが、これからは行政と市民が一緒になって考えていく。これが協働の基であり、そのようなことを推進するためにこの協議会があると考え。事務局の説明を聞くと、協働の推進に取り組んでいるように聞こえるが、実際には市民活動サポートセンターに市民が相談に来て何か始めるということは、なかなか無い。サポートセンターを設置、協働推進員を設置と書かれているが、市職員の協働に対する認識が薄いのではないか。この協議会では、ひとづくり、しくみづくり、体制づくりについて内容を濃くしていくため深掘していききたい。サポートセンターの活性化と協働推進員をどのようにしていくのか知りたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> サポートセンターへ相談に訪れる団体については、年間で数団体となっている。センターの活動を活性化させるため、まず団体の把握が必要と考え、匝瑳市地域活動団体登録要綱を制定し、現在募集中である。開始から1か月で、これまで5団体が登録の申し込みがあった。協働推進員については、各課等に1名設置されているが、担当者として推進しきれていない。また、以前、各課が抱える課題を提出させ解決に向けて進めていく活動も行ったが、協働推進員との意思疎通が難しく現在は凍結中である。職員の協働に対する意識改革について、今後も推進に向け進めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 団体の登録制度については期待している。ボランティア団体など、今まで行政が把握しきれていない団体があったと思う。JCなどにも登録してもらい、活動を活性化してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会については、市内で様々な事業が実施されている。市長挨拶にあったように、市内ではその他にも、沢山の事業が実施されている。事業を実施すれば、資金が必要になる。それでも匝瑳市市民提案型事業への提案につながらないのはなぜか疑問に思う。原因として聞くのは、補助金や助成金の申請書類提出が難しい、書き方が分からないという意見が多い。サポートセンターで、書類の書き方について助言などサポートしてくれると案内するが、提案までは結び付かない。協働と匝瑳市市民提案型事業の結びつけを今後考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> これまでの協議会は提案型事業の審議が主だった。協議会委員が率先して外に出向き、協働を市民にアピールする。そのような協議会にしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> サポートセンターを本庁舎のもっと前面に配置してはどうか。環境生活課の奥では人目につかない。役所に入ったらすぐサポートセンターが隣にあるようにすれば、ここは何をするところなんだろうと興味を持つ人も出てくると考える。また、そのような人に協働についての説明をすることもできる。近年、何かあれば役所に言えばいいという住民も増え、マスメディアなどもコトが起これば自治体を叩く風潮にある。そのようなご時世では、市民の意識も変えていかなければいけないので、サポートセンターが庁舎の前面に出てきて、協働の活動を市民に周知することが必要ではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が協働を自分事として捉えていないと思う。何故かという、実態を把握できていないと考える。日本創生会議において増田氏が消滅可能性都市という言葉を使われ、この地域も指定されている。20年後には地方自治体の存続も危ぶまれている。行政だけに頼ってでは消滅してしまうということ。市民自身が動かないとダメだと気付くべきである。そのようなことを理解していくと市民の主体性が生まれ、行動に結びついていくと考える。また、広報について、これまでは新聞やテレビなど、相手から与えられる情報が当たり前だったが、これからはインターネットやホームページ、動画サイトなど、市民が自ら情報を取りに行く、選んでいく時代に大きく方向転換されている。本市については、高齢者の方が多い地域であるが、最先端の情報提供と、基本となる情報提供について使い分けていくことによって、より広い範囲で市民意識の変化に影響を与えられると考える。
議長	<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会について、出された提案をただ審議して散会となつては、2年後の任期満了まで同じ状態が続くと懸念する。どうしたら、匝瑳市の市民協働がうまく進むのか皆で考えるため、協議会を開催する度に、どうすれば活動がうまくいくのか、何故うまくいかないのかなど討論を重ねていきたいと考えている。検討した結果は協議会でやってみる。やっとうまくいかなければ、何故うまくいかないか考え直し、うまくいけば更に発展させていく。このように1つずつ積み重ねていけば2年後にはこの協議会が現状のレベルより相当高いレベルにいると考える。匝瑳市市民協働推進条例第9条2項に、協働の推進に関し必要な事項について、市長に意見を述べることができると書かれている。協議会として市長にどのくらい意見が出せるのか、今後検討していきたい。各委員には次回の協議会までに協働指針を拝読いただき、何故匝瑳市の協働はうまくいっていないのか、どこを改善すればうまくいくのかを簡単に結構なので意見をいただきたい。本市が抱える大きな課題を協議会で解決するのは難しい。協働の手法を使い、市民と一緒に小さな課題を解決していき、成功体験をすることも大切なこと。手短なところから進めていければ良いと思う。最後に、協議会設立から4年間会長を務められた鎌形前会長に敬意を表し、委員で拍手を送りたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本日初めて出席された委員もいるので、1人ずつ感想を聞いてはどうか。《各委員より本日の感想発表》 <p>6. 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>